



## 大きな視点に立って

環境大臣 鈴木俊一

私は、昨年9月に環境大臣に就任して以来、地球温暖化問題、廃棄物問題など様々な課題に取り組んでまいりましたが、その過程において、今日の環境問題は、極めて幅が広く、また深刻な事態に立ち至っているということを改めて実感いたしました。このような環境問題は、一朝一夕に解決できるものではありません。その解決のためには、目の前の事象に対応していく対症療法にとどまらず、より大きな視点に立って、その根本的な原因を確実に見極め、それに対処していくことが不可欠と考えます。

今日の環境問題を突き詰めていくと、国民の日常生活や通常の事業活動から生じる環境負荷があまりに大きくなっており、それが原因で現在の環境問題が生じているということに行き着きます。したがって、その解決のためには、ライフスタイルや事業活動を根本から見直し、社会の在り方そのものを持続可能なものへと変革していかなければなりません。

環境対策は経済に悪影響を及ぼすとの考え方もいまだ根強くありますが、我が国には、自動車排出ガスの規制強化が自動車メーカーの技術革新を促し、世界市場における日本製自動車の躍進の一因となり、経済にプラスの影響をもたらした実績もあります。私は積極的な環境対策こそが、より深く自然のメカニズムに沿った新たな技術や産業を生み出す力となり、環境保全と経済発展が同時に実現する途を開くものと考えています。私は、このような認識に立ち、本年は、環境と経済の統合をどう進めていくかという壮大なテーマに真正面から取り組み、具体的な道筋を示していきたいと考えております。

現在、私たちが直面する最大の課題は、地球温

暖化問題への対応です。昨年6月、我が国は、京都議定書を締結し、更に地球温暖化対策を推進していく決意を世界に示しました。今後、この京都議定書の6%削減約束を確実に達成するために、温室効果ガスの排出量、中でも増加が著しい民生部門の排出量を削減していく必要があります。予算を大幅に拡充させ、加速度的に施策を充実させていきたいと考えております。

他方、持続可能な開発の実現は、先進国、途上国を問わず世界全体の懸案事項となっております。そのため我が国は、途上国の貧困の克服を念頭に置きつつ、我が国の公害経験や世界トップレベルの技術を活かした環境協力を進めるなど、国際社会をリードする環境外交を展開していかなければなりません。

地球温暖化問題の他にも廃棄物・リサイクル対策、自然と共生する社会の実現、都市における大気汚染対策、化学物質による環境リスク対策、健全な水循環の確保、環境保全活動の活性化など様々な環境問題に環境省として取り組んでまいります。

21世紀は「環境の世紀」と言われておりますが、これを現実化するためには、なお相当の努力を要します。その中で、環境省が果たすべき役割、そして国民の皆様からの期待の大きさを考えると、まさに身の引き締まる思いがいたします。私は、難問が山積する環境問題の解決に向け、全職員の先頭に立って取り組む決意です。

社団法人海外環境協力センター及び会員の皆様方には、国際環境協力及び地球環境保全の推進にご尽力いただき深く感謝申し上げます。今後とも、民間の活力を最大に発揮し、ますますのご活躍を期待しております。